令和５年度　学校評価　評価結果

松戸市立栗ケ沢中学校

１　学校評価アンケート集計結果

項目別アンケート結果（評価平均）

【評価】４…そう思う　　３…ややそう思う　　２…あまり思わない　　１…そう思わない

上段（Ｒ５）
下段（Ｒ４）

	評　価　項　目	生徒	保護者	教職員
1	生徒は楽しい学校生活を送っている	3.33 3.30	3.09 3.09	3.22 3.15
2	生徒と教師のコミュニケーションがとれている	3.19 3.17	2.96 2.97	3.11 3.08
3	学校はわかりやすい授業に努め、生徒が意欲的に取り組む授業作りをしている	3.29 3.27	2.70 2.71	3.07 3.19
4	生徒は家庭学習の習慣が身についている（家庭学習の時間が増えた）	2.73 2.77	2.40 2.46	2.30 2.15
5	テストの点数は（生徒個々の）目標点に達している	2.20 2.18	2.18 2.21	2.52 2.27
6	学年担任制は目的について成果をあげている	2.95 -	2.87 -	2.48 -
7	生徒は基本的な生活習慣（あいさつ・言葉遣い・服装等）が身についている	3.22 3.24	2.99 2.98	2.44 2.38
8	学校は相手の存在を認めるなど、適切な人間関係を指導している	3.28 3.24	2.90 2.90	3.11 3.19
9	学校はいじめや暴力に対して、適切な指導を行っている	3.20 3.19	2.87 2.88	3.19 3.46
10	学校は生徒の安全・安心を考えている	3.43 3.40	3.02 3.05	3.44 3.50
11	学校は進路指導（上級学校や職業調査等のキャリア教育）が充実している	3.18 3.14	2.68 2.65	3.26 2.85
12	生徒は善悪の判断を行い、行動することができている	3.22 3.23	2.93 2.93	2.74 2.54
13	生徒は行事や委員会・係活動・ボランティア活動などに積極的に参加している	3.10 3.12	2.93 2.92	3.04 2.81
14	生徒の自己肯定感が育っている（自分を「大切な存在・かけがえのない存在」だと思っている。）	2.80 2.80	2.79 2.80	2.78 2.77
15	学校は給食のルールが守られ、楽しい給食が行われている	3.15 3.16	2.92 2.88	3.22 3.31
16	生徒は部活動に意欲的に参加し、満足している（満足していた）	3.09 3.11	2.82 2.89	3.04 2.85
17	生徒会活動は生徒の主体的な活動が工夫されている	3.29 3.26	2.94 2.98	3.11 2.77
18	学校は学校便り・ホームページ・保護者メール等で、学校や生徒の様子、情報を適切に伝えている	3.39 3.38	3.22 3.26	3.63 3.85
19	学校は、地域の方々と力を合わせ、学校づくりを進めている	3.02 2.94	2.91 2.90	3.15 2.85
20	生徒は自分の考えをしっかりと持ち、わかりやすく伝えるように気をつけている	3.11 3.11	2.73 2.72	2.70 2.54

※昨年度比　水色…評価↑　黄色…現状維持→　桃色…評価↓

２　学校評価　評価結果（まとめ）

（1）学校運営に関して　【評価項目１、２、６、１０、１５、１８、１９】

【評価】４…そう思う　　３…ややそう思う　　２…あまり思わない　　１…そう思わない

	評　価　項　目	生徒	保護者	教職員
1	生徒は楽しい学校生活を送っている	**3.33** **3.30**	**3.09** **3.09**	**3.22** **3.15**

【項目１　学校の楽しさ】については、概ね「学校生活満足度」は高いと判断できる。すべての評価者について 3.0 以上の評価を得られていることから、学習や行事など学校生活全般において一定の満足が得られていると考える。生徒・教職員に対して保護者評価が低くなっているので、生徒が学校での活動を家庭で生き生きと話すことができるよう充実した活動を目指していく。

	評　価　項　目	生徒	保護者	教職員
2	生徒と教師のコミュニケーションがとれている	**3.19** **3.17**	**2.96** **2.97**	**3.11** **3.08**

【項目２　生徒と教師の関係】については、生徒・教職員の評価からは生徒と教師が良好な関係にあると推測できる。学年担任制の導入により、生徒はこれまで以上に多くの教員と関わる機会を持てている。生徒の評価に対し、保護者の評価が低くなっていることについては、保護者が望む生徒への関わり方を考えていく必要がある。今後も小さな学校のメリットを活かし「すべての教職員が積極的な生徒指導をおこなう」という方針から、多くの職員が一人一人の生徒と関わるようにしていきたい。

	評　価　項　目	生徒	保護者	教職員
6	学年担任制は目的について成果をあげている	**2.95** **-**	**2.87** **-**	**2.48** **-**

【項目６　学年担任制】については調査対象者（生徒・保護者・教職員）ごとに目的として挙げている項目が違うため並列で比較することは難しいが、生徒・保護者については 3.0 に近い評価を得られていることから、学年担任制について一定の理解が得られ目的に沿った学級運営がなされていると考えられる。一方で教職員の評価が低くなっている点については教職員側に学年担任制の目的として示している**「全生徒を全職員で多面的に捉え、生徒の個性・社会性・自立心の伸長をはかる」**という目的に対し、改善すべき点があるところに起因していると思われる。学年担任制は学校や生徒の実情に合わせた生徒の育成・支援を行える可能性を多分に含んでいる一方、有用な知見が不足していることから、日々検証を重ねながら進んでいる部分もあり、教職員にとっては運用に困難さも併せ持っている。全国的に見ても実践事例が少なく大変高度な教育課題に挑んでいることは間違いない。自校の実践から検証・改善を続け、よりよいものとなるよう制度を設計していきたい。

	評　価　項　目	生徒	保護者	教職員
10	学校は生徒の安全・安心を考えている	**3.43** **3.40**	**3.02** **3.05**	**3.44** **3.50**

【項目１０　安心・安全】については、すべての評価者で 3P を越え、学校への信頼度や教職員の安全管理意識は高まっている。施設管理も含め、安心・安全な学校であることは、学校経営上もっとも優先されるべきことである。来年度も引き続き信頼される学校運営を目指していく。

	評　価　項　目	生徒	保護者	教職員
15	学校は給食のルールが守られ、楽しい給食が行われている	**3.15** **3.16**	**2.92** **2.88**	**3.22** **3.31**

【項目１５　楽しい給食】については、令和５年５月１１日以降、感染拡大防止対策に一定の緩和が見られたものの、感染拡大の恐れがある場合についてはこれまで同様に会食時に一定の間隔をとり、飛沫がとぶ恐れのある会話等に制限がかかっている。法定伝染病の爆発的な感染ピークは過ぎたが、第五類移行後も感染者０という期間が皆無で、予断を許さない状況は継続している。また、

３学期は３年生が受験期に入るので、校内・家庭内での感染拡大を最小限に抑えたいと考えているため、これまでのような会食の形（対面）に戻すことが難しい状況にある。しかし生徒や保護者から「楽しい会食の時間の再会」を望む声は続いているので、感染状況を見ながら判断していきたい。

	評　価　項　目	生徒	保護者	教職員
18	学校は学校便り・ホームページ・保護者メール等で、学校や生徒の様子、情報を適切に伝えている	**3.39** **3.38**	**3.22** **3.26**	**3.63** **3.85**

【項目１８　開かれた学校】については、評価水準をある程度維持することができている。積極的な情報発信と個人情報保護の両面を意識しながらこれまでどおり活動を継続していく。

	評　価　項　目	生徒	保護者	教職員
19	学校は、地域の方々と力を合わせ、学校づくりを進めている	**3.02** **2.94**	**2.91** **2.90**	**3.15** **2.85**

【項目１９　地域参画】については、地域行事の再開によって地域との関わり合いが増えたことや学校へのボランティア要望の受け入れを積極的に行い、実際に生徒が地域の一員として貢献できたことにより、すべての評価者において評価が高まる結果となった。地域・家庭・学校の三者で生徒の成長を見守ることができるように今後も連携を深めていきたい。

（２）**学習指導に関して**　【評価項目３、４、５】

【評価】４…そう思う　　３…ややそう思う　　２…あまり思わない　　１…そう思わない

	評　価　項　目	生徒	保護者	教職員
３	学校はわかりやすい授業に努め、生徒が意欲的に取り組む授業作りをしている	**3.29** **3.27**	**2.70** **2.71**	**3.07** **3.19**

【項目３　授業】については、生徒・教職員の評価は 3P 近くの数値で、授業については概ね満足できている。教員側は「深い学びの実現」のために教材研究をし、生徒が主体的に取り組めるような課題の提示やＩＣＴ機器などを活用した授業づくりに努めている。生徒一人に一台タブレットが支給され普通教室で一斉に使用できるネット環境が実現しており、各教科で本格的な活用が段階的に進んでいる。生徒にとってはノートやプリントなどの記述表現だけでなく、Word や PowerPoint ファイルや動画等の課題提出により表現の手段が増え、記述を苦手としている生徒にも課題に向かう意欲を持てていると考える。新学習指導要領への完全移行を受け、評価項目が大きく変化していることから、教師主導型の授業形式だけではなく、生徒の主体的・自主的な活動や協働して問題解決に向かうような授業形式を今後も研修していく必要がある。授業参観や子どもから保護者への伝えで「わかりやすい授業だった」と感じてもらえるように研修を重ねてく。

	評　価　項　目	生徒	保護者	教職員
４	生徒は家庭学習の習慣が身についている（家庭学習の時間が増えた）	**2.73** **2.77**	**2.40** **2.46**	**2.30** **2.15**

【項目４　家庭学習】については、研究主任を中心に教科指導の改善を図っている。授業や宿題で小さなステップ（小課題）を提示し、生徒の回答・提出に対して教員側が適切に評価する一連の活動を繰り返すことで、生徒が次の学習に向かう意欲につながっていると考える。新学習指導要領では『学びに向かう力』が問われており、日常生活の中で自発的に問題発見や解決を繰り返すことが求められている。今後も学びに向かう意欲や工夫を学校側から示せるようにしたい。生徒ごとに課題に対する負担感が異なるため、一様に同じ課題を提示するのではなく、個別最適な家庭学習の形とは何かを検討し、学びに向かう意欲を持たせられるような課題の出し方の工夫が必要だと考える。

	評　価　項　目	生徒	保護者	教職員
５	テストの点数は（生徒個々の）目標点に達している	**2.20** **2.18**	**2.18** **2.21**	**2.52** **2.27**

【項目５　学習成果】については、生徒・保護者・教職員ともに 2.1~2.2 点台の評価となっている。現状に満足していない１つの理由は、目標点が高く、さらに向上させたいという期待値があるから

だと考える。「わかった」「できた」という達成感や手ごたえも大切にし、生徒に自信をつけさせていきたい。一方、授業で学んだことに対する習熟度を確かめる定期テストにおいて、生徒や保護者の望むようなテスト結果が得られていないということは、教員側の教え方やテスト出題の見直し、生徒の習熟度を確認しながらの授業運営など、教える側が改善しなければならない点も多くあると考えている。テスト後は定期テスト・実力テスト・全国学力学習状況調査等を分析し課題となっている部分や生徒の苦手分野について再度復習、確認する作業が今まで以上に必要だと考える。

（３）**生徒指導に関して**　【評価項目７、８、９、１２、１４、２０】

【評価】４…そう思う　　３…ややそう思う　　２…あまり思わない　　１…そう思わない

	評　価　項　目	生徒	保護者	教職員
7	生徒は基本的な生活習慣（あいさつ・言葉遣い・服装等）が身についている	**3.22** **3.24**	**2.99** **2.98**	**2.44** **2.38**

【項目７　基本的生活習慣】については、保護者・教職員の評価が若干高まった。今年度から新しい標準服（新制服）を採用し多様性への配慮を行ったことや校則の抜本的な見直しを行い、生徒と共に考え柔軟に転換していった結果だと考える。

	評価項目	**生徒**	**保護者**	**教職員**
8	学校は相手の存在を認めるなど、適切な人間関係を指導している	**3.28** **3.24**	**2.90** **2.90**	**3.11** **3.19**
9	学校はいじめや暴力に対して、適切な指導を行っている	**3.20** **3.19**	**2.87** **2.88**	**3.19** **3.46**

【項目８　適切な人間関係】【項目９　いじめへの対応】、について、概ね良好な評価を得られた。新たな人間関係を構築したり、人間関係を修復したりする力は集団生活を営む上で大切な要素である。「Ｑ－Ｕ調査」や「困りごとアンケート」等を活かして、丁寧な指導、教育相談を継続する。学校でおこなった指導内容を保護者に伝え、学校と家庭とが連携しながら生徒の人間関係づくりを支援していく。「いじめ」に対する対応については日常の観察を基本とし教育相談を定期的に実施する。「困りごとアンケート」の結果を細かな指導につなげ、早期解決を図ることで安心・安全な学校環境を維持することが大切である。今年度は学年担任制の特性を活かし、生徒指導的な問題に対しチームで取り組んでいる。１人の教員の主観で指導するのではなく、多くの教員の目が入ることで問題点の整理を迅速に行うことができ、早期的な対応、継続支援、解決がはかれている。

	評　価　項　目	生徒	保護者	教職員
12	生徒は善悪の判断を行い、行動することができている	**3.22** **3.23**	**2.93** **2.93**	**2.74** **2.54**

【項目１２　善悪の判断】について、生徒・保護者・教職員ともに評価が高まった。昨年度以上に学校全体に落ち着きが見られている。今後も集団の正しい目を育て、生徒個々が善悪の判断を的確に行うことができるよう、指導を継続していく。

	評　価　項　目	生徒	保護者	教職員
14	生徒の自己肯定感が育っている（自分を「大切な存在・かけがえのない存在」だと思っている。）	**2.80** **2.80**	**2.79** **2.80**	**2.78** **2.77**

【項目１４　生徒の自己肯定感】については、評価が横ばいではあるが、生活ノート（やり取り帳）や行事反省の書きぶりを見ると、多くの生徒は自分が集団の中で与えられた役割を果たし、達成感を得ることができている。一方で現状の自分に満足しておらず、学校・学級の集団から認められていないと感じている生徒もいることから、誰もが認められる集団形成を全職員で見守り指導していく必要がある。ありのままの自分を「大切な存在だ」「かけがえのない存在だ」と思えるよう継続的に支援・指導していく。

	評　価　項　目	生徒	保護者	教職員
20	生徒は自分の考えをしっかりと持ち、わかりやすく伝えるように気をつけている	**3.11** **3.11**	**2.73** **2.72**	**2.70** **2.54**

【項目２０　言語活用科の取り組み】については、松戸市の特別教科『言語活用科』を教育課程に組み入れ「自分の意見をわかりやすく伝える力」「相手が伝えようとすることを理解する力」を身につける授業を行っている。これから社会に出ていく子どもたちにとって大切なコミュニケーション力を育んでいる。今年度はシスター交流（しゃべり場）や行事などで生徒が自分自身の言葉で発表する場面を意識的に設定した。生徒が主体となって話す場面は昨年度以上に増えている。行事運営の際に生徒の言語活用能力を生かせるように意識したことが評価を高める結果となった。

（4）**特別活動に関して**　【評価項目１１、１３、１６、１７】

【評価】4…そう思う　　3…ややそう思う　　2…あまり思わない　　1…そう思わない

	評　価　項　目	生徒	保護者	教職員
11	学校は進路指導（上級学校や職業調査等のキャリア教育）が充実している	**3.18** **3.14**	**2.68** **2.65**	**3.26** **2.85**

【項目１１　進路指導】について、すべての評価者で評価が高まった。職業観を育てるといった面では校外学習（空港）職業人講話や林間学園（林業体験）で実際に働く現場に立ち会った経験や、３学期に行う職場体験学習への期待からアンケートの高評価につながったと考える。生徒・教職員に比べて保護者の評価が低い要因としては、早期から具体的に進路指導（高校入試）についての取り組みを始めて欲しいという願いがあることが自由記述から伺えた。年間進路指導計画をもう一度見直して、生徒・保護者に対し必要な時期に必要な情報を提供し、生徒や保護者に進路に対しての不安を与えないように進路に向けて動き出せるように改善したい。

	評　価　項　目	生徒	保護者	教職員
13	生徒は行事や委員会・係活動・ボランティア活動などに積極的に参加している	**3.10** **3.12**	**2.93** **2.92**	**3.04** **2.81**

【項目１３　行事・ボランティア】については多くの生徒が行事・委員会活動に積極的に関われたことで高い評価を得ることができた。得られた体験が日常生活の中で「協力」「他者への思いやり」「優しさ」といった形で具現化していくとよい。学校行事に関しては今年度の反省を活かしスクラップ＆ビルドの視点を持って抜本的に実施内容や日程の見直しをしていきたい。

	評　価　項　目	生徒	保護者	教職員
16	生徒は部活動に意欲的に参加し、満足している（満足していた）	**3.09** **3.11**	**2.82** **2.89**	**3.04** **2.85**

【項目１６　部活動】については、評価が 3.0 付近ということで概ね満足していると判断されるが生徒や保護者によっては練習や指導について更なる期待や要望を持っている者も多い。部活動は現在、地域移行が進められており過渡期にある。持続可能な学校運営という視点で考えると、現在の部活動の枠組みをそのまま継続することは、今後の社会では難しいと考える。本来部活動は生徒の自主的・自発的な参加により行われるものであり教育課程に含まれておらず校務の具体的な範囲内と断定できない側面を持つことが部活動の運営責任の所在をぼやかしてしまっている。このような全国的な社会的問題が解決されないまま既存の運用が続いており、今年度は各種大会・コンクールも再開、教職員の慢性的な超過勤務を生む大きな要因になっている。教職員は部活動運営の転換期に直面しており保護者のニーズと法令（部活動ガイドライン等）との狭間でもがいているのが事実である。社会の動向を注視しながら、生徒の生涯にとって有効な手段を学校として選択していく。

	評　価　項　目	生徒	保護者	教職員
17	生徒会活動は生徒の主体的な活動が工夫されている	3.29 3.26	2.94 2.98	3.11 2.77

【項目１７　生徒会活動】については、委員会活動や生徒会行事において上級生が下級生をリードしながら確実に行われている。今後も新生徒会役員がリーダーとなって新しい活動に挑戦したり、現行の企画を見直したり、生徒全体が満足するような活動を地道におこなっていくことが大切である。学級や学年の枠をこえた生徒会活動等の取り組みは社会性を養う上で大切な機会である。生徒会活動の形を見直しながら、縦や横のつながりを育みながらリーダーシップを伸ばす機会としたい。

３　成果と課題（学校評価のまとめ）

→生徒・保護者・教職員が「おおむね満足している」を基準とし、成果と課題に分けた。

学校評価の結果から、今年度、本校の学校教育活動の成果と課題は以下のようにまとめられる。

（１）成果（生徒・保護者・教職員が共に 3.0 点以上の項目）

①　生徒は、楽しい学校生活を送っている。

⑩　学校は生徒の安全・安心を考えている

⑱　学校は学校便り・ホームページ・保護者メール等で、学校や生徒の様子、情報を適切に伝えている。

（２）課題（生徒・保護者・教職員が共に 3.0 点未満の項目）

④　生徒は家庭学習の習慣が身についている（家庭学習の時間が増えた）。

⑤　テストの点数は（生徒個々の）目標点に達している。

⑥　学年担任制は目的に対して成果をあげている。

⑭　生徒の自己肯定感が育っている。（自分を「大切な存在」「かけがえのない存在」だと思っている。）

≪昨年度、生徒・保護者・教職員が共に 3.0 点未満の項目で今年度改善した項目≫

⑲　学校は、地域の方々と力を合わせ、学校づくりを進めている。

（３）来年度に向けて

新型コロナウイルス感染症（パンデミック）による長いトンネルを抜け、日常が戻りつつある。コロナ禍を経て国民の生活様式が大きく変容したことは、世の中の価値観や中学生の将来観を大きく変えた。社会の変化が加速度を増し、複雑で予測不可能なこの時代において子供たちに求められる力は、こういう時代だからこそ受け身になるのではなく、時代の変化を前向きに捉え新しい未来の形を創造していく力である。

本校においても前述の目的が達成するようにカリキュラム・マネジメントを行い、新たな価値の創造に向けた取り組みに果敢に挑戦していくことが肝要であると考えている。学校が変化を避けていては新たな時代の担い手である生徒の育成は務まらない。その１つとして、今年度から全校で学年担任制導入に踏み切った。本来教育は日本国憲法をはじめ、法令や学習指導要領、学校教育目標に準じ全生徒に対し均等に施されるべきだが、教育は人が為すが故に偏りが出てしまうことは否めない。A先生のもとで１年間学んだ生徒と、B先生のもとで学んだ生徒では得る価値や心の伸長に偏りが生じる可能性が大いにある。１年間、学級での生活や学びに満足する生徒もいる一方で、固定された大人との人間関係の中で、長期に思い悩む生徒も存在する。公教育という捉えの中で、固定担任制と学年担任制のどちらがより公平性が保たれるだろうか。学校教育において「誰から教わるかではなく」「何を教わるか」が重要なのであれば教える側は固定した学級担任である必要がないのではないか。全職員が教育たるものを理解し、全生徒の状況や特性を理解し教授する方法を検証することにも価値があるのではないか。そのような考えのもと本校は松戸市教育委員会から学年担任制の研究指定を受けて「学年担任制」を検証している。

また、新しい教育システムの構築については多くの発想が考えられるが、その１つとして所属学級を１単位とした教育活動にとらわれない、新しい単位での指導の在り方についても検討の余地があると考えている。国や県、市の施策に基づき、変革を恐れず進んでいきたい。

文部科学省からは学習を進める上での大きな柱「個別最適な学び」と「協働的な学び」が示されている。「指導の個別化」「学習の個性化」を図り、生徒一人一人の習熟度に合わせた目標設定や学習支援を行い、更に「多様な他者と協働」することで、異なる価値を組み合わせる。このような細やかな指導や課題設定、協働作業を可能とするのが１人１台タブレットなどＩＣＴ機器の活用である。本校においてもタブレットを活用した実践を進めているが、次年度も高度で高速な情報処理機能を生かしながら、新しい授業づくりをすすめていく。

学校評価アンケートではいずれの項目についても昨年同様の評価水準を保っているものの、未だ課題として残っている項目は「学習習慣」「学習到達度」「自己肯定感」である。学びに向かう意欲、学習の習得、できた・わかったことで得る達成感や自己肯定感といったところを次年度の重点課題とし、打開策を講じていきたい。

≪最後に≫

今年度も、地域・保護者の多くの方々のご協力・ご支援に支えられ学校運営を行うことができました。心より感謝申し上げます。評価、ご意見を参考に、現在の状況に甘んずることなく、小金原地区の方々に愛され、誇りをもてる学校を作り上げたいと思います。今後もよろしくお願いいたします。